

平成27年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	信州から環太平洋、そして世界へ 世界標準の医療に飛び込む6年次臨床実習	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	医学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	清水郁夫 (医学教育研修センター)	
取組の目標	医学部臨床実習での海外派遣と報告会による経験を共有することにより、グローバル医療人を目指す学びを促進すると同時に、医学教育改革による専門人材育成機能を強化し、臨床・研究双方における発進力向上を目指す。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> 平成27年度6年次選択臨床実習において、ハワイ大学医学部シミュレーションセンター、シンガポール総合病院(シンガポール)での実習を計画し、当該学年に参加を呼びかけた。 マーストリヒト大学(蘭)血液内科と新規実習の交渉を開始した。 5名から問い合わせがあり、うち3名をシンガポールに派遣する準備を進めたが、中途キャンセルおよび先方とのマッチング不良のため最終的に1名を平成27年5月シンガポール総合病院に3週間派遣した。 実習経験を7月31日に留学生交流会の場で発表し、本学学生および中国、フランス、スイスからの留学生と英語で質疑応答した。アンケート結果を集計し、海外実習に関心を持つ学生が多数みられた。 	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	(そう評価する理由) 医学英語勉強会等を中心に海外留学の機運が高まり、平成28年度には6名から海外実習を希望する旨の問い合わせを受けた(選考および条件調整の結果、うち4名を派遣することとなった。)
	<input checked="" type="checkbox"/> おおよそ達成できた	
	c. 半ば達成できた	(今後の展望) 学生に参加を引き続き呼びかけると共に、活動1のように高年次実習での派遣先をさらに増やすよう働きかけを継続していく。
	d. おおよそ達成できなかった	
	e. 達成できなかった	